

News Release



再生可能資源を用いた BASF のポリアミドを原料とするフィルムが、大日本印刷の新規包装材に採用

2016年9月29日

- 生産工程の初期段階に再生可能原料を使用する「マスバランス・アプローチ」を適用したポリアミド「Ultramid® Mass Balance」
- 従来と同等の製品性能で、化石資源使用量削減や温室効果ガスの排出量低減に寄与し、持続可能性に貢献
- 原料から包装材に至る全生産工程での認証取得を目指す

BASF ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:ヨルグ・クリスチャン シュテック)は、持続可能性に貢献するポリアミド 6 である「Ultramid® Mass Balance(ウルトラミッド マスバランス)」を主原料としたフィルムが、大日本印刷株式会社(以下 DNP 社)のポリアミドフィルム包装材に採用されることを発表しました。フィルムは興人フィルム&ケミカルズ株式会社(以下 KJFC 社)によって製造されます。本取組は認証スキームの確立を含め、3 社の協力により実現しました。

BASF の Ultramid® Mass Balance は、ドイツの第三者認証機関の TÜV SÜD(テュフズード)による認証を伴う「マスバランス・アプローチ」を用いて、生産工程の初期段階で、製品に必要な化石原料を再生可能原料に置き換えて製造されています。日本で Ultramid® Mass Balance が採用されるのは、今回が初めてです。

包装材業界では近年、消費者や消費財メーカー各社から、より持続可能な社会に貢献する包装材が求められています。一方、包装材で重要な役割を果たすポリアミド 6 は、その製造において再生可能資源を使用することは困難と考えられてきました。再生可能資源での代替が難しいカプロラクタムを原料としていることが主な理由です。こうした中、BASF は生産工程の更に初期の段階、つまり、スチームクラッカーからポリアミドを製造

する過程に再生可能原料を使用する「マスバランス・アプローチ」を導入することで、Ultramid® Mass Balance を開発し、2014 年より提供しています。

BASF の「マスバランス・アプローチ」について

BASF の「マスバランス・アプローチ」では、BASF の生産フェアブント(統合生産拠点)の第一段階で、化石原料とともに再生可能原料が使用されます。その後、再生可能原料の量が「マスバランス方式」に基づき特定のマスバランス製品に割り当てられます。生産フェアブントで化石原料の代わりに使用された再生可能原料投入量と、BASF のマスバランス製品出荷量は厳密に管理され、第三者認証機関である TÜV SÜD によって認証されています。これにより、認証された製品には、化石資源使用量削減や温室効果ガスの排出量低減に寄与し、持続可能性に貢献するという付加価値が加わります(マスバランス・アプローチ:添付資料①参照)。

原料から包装材に至る全生産工程での認証取得を目指す

マスバランス方式では、再生可能原料から最終製品に至る全バリューチェーンでの一貫した原料管理システムが欠かせません。DNP 社の包装材開発においては、ポリアミド 6 を提供する BASF が、既に TÜV SÜD の認証を取得しています。ポリアミドフィルムについては KJFC 社、およびそのフィルムを使用したポリアミド包装材については DNP 社が現在監査を受けており、原料から包装材に至るまでの全生産工程(バリューチェーン:添付資料②参照)において TÜV SÜD の認証取得を目指しています。定期的な第三者機関による監査を必要とするこの原料管理システムにより、DNP 社は、製品の生産に必要とされる化石原料の 100%が、生産過程において再生可能原料に代替されたことを証明することができるようになります。

BASF ジャパン 副社長執行役員 石田博基は次のように述べています。「この度、三社協業による革新的な次世代の包装材の開発に寄与することができ、大変うれしく思います。Ultramid® Mass Balance は、従来と同等の製品性能を維持しながら、化石資源の使用量削減や温室効果ガス

の排出量低減へのソリューションを提供することを可能にしました。BASF は、化学メーカーとして、次世代の包装材料開発および包装材料業界の持続可能な発展にこれからも貢献してまいります。」

この 3 社の取り組みおよび BASF の「マスバランス・アプローチ」の詳細については、2016 年 10 月 4 日から 7 日まで東京ビッグサイトにて開催される「2016 東京国際包装展」において展示されます。

なお、BASF の「マスバランス・アプローチ」を適用したポリアミドは、従来品と同様に、フィルムその他、エンジニアリングプラスチック、繊維、モノフィラメント用途等にも使用可能です。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくれます。また、経済的な成功、環境保護、そして社会的責任を同時に実現しています。BASF では、約 112,000 人の社員一人ひとりがほぼすべての産業、ほぼすべての国においてお客様の成功に貢献できるよう努めています。製品ポートフォリオは化学品、高性能製品、機能性材料、農業関連製品、石油・ガスの 5 つの部門から成ります。2015 年、BASF は 700 億ユーロを超える売上高を達成しました。BASF の詳しい情報は、www.basf.com (英語)、newsroom.basf.com (英語)、www.basf.com/jp (日本語)をご覧ください。

■日本の BASF について

BASF は日本では 1888 年に事業を開始しました。事業活動は、化学品、高性能製品、機能性材料、農業関連製品の 4 分野です。主要生産拠点として、神奈川県茅ヶ崎市(コンクリート混和剤、建設資材)、茨城県古河市(パーソナルケア製品原料)、横浜市戸塚区(コーティングス)、三重県四日市市(熱可塑性ポリウレタン、ポリマーディスプレイ)を構え、また全国に建設化学品の製造センターを有しています。研究開発においては、日本から革新的な製品をグローバル市場に発信することを目指しています。近年、バッテリー材料産業での事業拡大に向けて「尼崎研究開発センターバッテリー材料研究所」や日本のパートナーとの合弁会社を設けたほか、自動車の軽量化をさらに推進するため「アジア・コンポジット・センター」を横浜に開設しました。2015 年の BASF の日本での売上高は約 15 億ユーロ(2,001 億円)、従業員数は 1,209 人です。